



## 感染者の動向

感染者数／1日*	7人 (減少)
累計死亡者数	3人
死亡者数／100万人	0人

(\*5月31日～6月6日の平均) 出所：WHO



## 行動・活動制限

活動制限	行動制限
<p>具体的制限</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>21年3月31日、国境閉鎖、一般人の出入国禁止(陸上貨物輸送関係者、政府が許可した者を除く)、市中感染国からの外国人の入国禁止、市中感染国からのチャーター便の運航停止等を含むCOVID-19感染拡大防止措置の適用を5月31日まで再延長。</li> <li>21年4月11日、ラオスで1年ぶりの市中感染が発生。以降、市内感染者が急増。政府は、5月20日、首都ビエンチャンの都市封鎖措置(4月22日～5月5日)を見直し、新規感染者等の発生状況に応じたゾーニング制(レッド、イエロー、グリーン)に移行(6月4日まで)。レッドゾーンでは、①他地区との往来禁止、②外出の原則禁止、③工場等の閉鎖等、厳格な措置を継続。6月4日、現行の感染拡大防止措置の一部を見直しつつ、6月19日までの延長を決定。</li> <li>エッセンシャル部門は感染防止策を講じることで営業許可。工場も所定の条件を満たすことを条件に操業許可(レッドゾーンを除く)。</li> </ul>	



## 空港再開／直行便

空港	稼働中
<p>日本からの直行便</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本との直行便はなく、不定期運航のチャーター便(仁川経由、クアラルンプール経由)を乗り継ぐ以外に方法はない。</li> </ul>	



## 日本人に対する入国制限

日本人の入国	稼働中
<p>外務省渡航情報</p> <p>感染症危険情報 レベル2 (不要不急の渡航は止めてください。)</p> <p>制限措置概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光ビザの発給は停止。ビジネスビザは、政府の許可を取得した者に対してのみ発給。</li> <li>ラオスへの入国者は、①政府の入国許可書(入国日・入国ルートの通告、指定隔離ホテルの予約確認書の提出が必要)およびビザの取得、②出国前の72時間以内に発行されたPCR検査陰性証明の提示、③入国後14日間の強制隔離等が求められる。</li> <li>12月11日、チャーター便を利用した外国人の入国規制、一部チャーター便の運航延期を発表。以降、市中感染国からの外国人渡航者の入国禁止、市中感染国からのチャーター便の運航停止等の措置は累次延長され、現在は5月31日まで適用。日本人の入国は緊急かつ重要な用務と認められた場合に限り許可。</li> <li>2月26日、外国人入国者へのGPSモニタリング機器装着、COVID-19保険加入を義務化。到着時に300ドル必要(保険料、GPS機器、同機器保証金)。ワットイ国際空港で試験運用開始。</li> </ul>	



## 経済活動再開の状況

経済活動の状況
<p>主要規制・制限</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>21年4月11日、市中感染者が1年ぶりに確認され、その後、首都ビエンチャンを中心とする市中感染が拡大。4月22日～5月20日までの間、首都ビエンチャンの都市封鎖を実施(①原則外出禁止、②都県境を越える往来禁止、③娯楽施設等の休業等)。</li> <li>5月21日、ロックダウンを維持しつつ、リスク度に応じたゾーニングに基づく行動規制(規制緩和も含む)に移行(6月19日まで延長)。</li> <li>6月7日現在、バー、屋外レストラン、カラオケ、娯楽施設、マッサージ店等は休業命令。レッドゾーン以外の飲食店での店内飲食(酒類提供は禁止)、カジノ営業、理容店の再開、屋外スポーツは許可。</li> <li>エッセンシャル部門に加えて、工場、大規模プロジェクト、事業所等については感染防止措置を講じることで操業継続は許可。</li> <li>ワクチン接種完了者(2回目接種後1か月以上経過)の国内線、長距離バスによる都県間移動を許可(現時点で再開していない)。</li> </ul>
<p>再開基準 (もしくは規制強化の基準)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レッドゾーン指定は過去14日間、新規感染者(感染経路不明者)等が発生しない場合に解除を検討。</li> <li>緊急かつ重要な用務があり、ラオス政府(COVID-19対策特別委員会)の入国許可を得た外交官、国際機関職員、専門家、投資家、ビジネスパーソン、技術者、労働者の入国が限定的に再開。</li> </ul>
<p>現地産業・企業の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期便の再開、人の往来を加速化させるファストトラック制度の開始等により、中国企業の投資・ビジネス活動は堅調。ラオス初的高速道路(ビエンチャン-バンビエン間)が12月に開通、中国国境まで順次延伸予定。中国ラオス鉄道も21年12月の開通に向け工事が進展(進捗率90%超)。高圧送電網事業の事実上の買収、大型商業施設や大型総合病院等の建設が順調に進展、ラオス初の製油所も完成。</li> </ul>

ビエンチャン事務所長  
岩上勝一

## 新規感染者数は激減、経済・社会行動制限の一部を規制緩和

政府は、ロックダウン(4月22日～)を維持しつつ、5月20日、感染リスクが低い地域における行動制限の限定的緩和を含むゾーン管理制(5月21日～6月4日)に移行。6月4日、直近1週間の1日当たりの新規感染者数が全国で6.7人、首都ビエンチャンで4.7人と抑制傾向が顕著になっていることを受け、ロックダウン解除の期待が高まったが、政府は追加の規制緩和措置を盛り込みつつも、ゾーン管理制によるロックダウンの継続を決定(6月19日まで)。



## 現地日系企業の活動状況

## 現地日系企業の抱える課題

## 操業状況

- ・ エッセンシャル部門(工場を含む)は出勤人数削減、ソーシャルディスタンス等の感染防止措置を講じることで許可。それ以外の部門は在宅勤務(原則外出禁止)。

## サプライチェーン、物流への影響

- ・ 国境(国際国境、地方国境、慣習的国境)での検疫強化対策、出入国管理規制が継続しているが、国際国境における貨物輸送は許可(一般人の往来は、陸上貨物輸送関係者、政府が許可した者を除き禁止)。政府は21年2月8日、ラオスに入国する外国トラックの運転手に対して、入国の72時間以内に行ったPCR検査による陰性証明書の提示を義務付けた。
- ・ 公共事業運輸省は、4月23日、国際運送事業に係るガイドラインを発表(①一般商品の輸入はラオス側国境の指定積み替え場所で積み下ろし、②化石燃料、危険物、農産物、関税免除対象の輸出加工用原料等、積み替えが困難あるいは危険性がある商品については、外国車両が目的地まで輸送可、③第3国輸送のためのトランジット貨物は、ラオス国内で車両交換し、ラオス車両が輸出先まで輸送)。政府は、貨物輸送に係る規制を全国統一ルールに従って運用するよう指示。
- ・ 航空貨物を使った輸出入には影響あり。バンコクを経由する国際クーリエサービス(DHL等)便は、タイ・日本間のフライト制限により週1便程度配送。

## 現在抱える課題、懸念

- ・ 外国人の入国管理および国際チャーター便規制は5月31日まで継続。3月下旬、20年12月以来、日本人の入国が限定的に許可されたが、入国許可審査が厳格であることから、日本へ一時退避した日本企業駐在員等の再渡航(再入国)、駐在員交代による後任者の赴任、短期のビジネス出張者の入国は依然として困難。
- ・ 首都ビエンチャンを中心とする市中感染の拡大を受けての都市封鎖(その後、各県が独自の県封鎖、外出禁止等の措置を発動)により経済活動は停滞。
- ・ 政府は、21年中に人口の50%にワクチン接種を完了させる計画(21年5月、当初目標の20%から引き上げ)。市中感染の拡大でワクチン接種は急速に進展(6月7日現在、ワクチン接種率は19年人口比で約9.8%)。20年11月より中国シノファーム製、21年4月よりアストラゼネカ製のワクチン接種を実施、6月15日からファイザー製ワクチンの接種も開始予定(在留邦人を含む外国人も接種)。



## 現地政府の企業支援策(進出日系企業を対象に含むもの)

## 経済支援策

## 支援概要

進出日系企業を対象に含む支援策はなし



## ジェットロからのお知らせ

## 関連サービス

- ・ ラオスにおける新型コロナウイルス対応状況(ジェットロウェブサイト)  
[https://www.jetro.go.jp/world/covid-19/asia/#page\\_la](https://www.jetro.go.jp/world/covid-19/asia/#page_la)



- ・ ジェットロメンバーズの方に向けて、毎日、コロナ関連動向を含む海外の政治・経済の速報記事を配信中。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

## お問い合わせ

(国内)  
新型コロナウイルス相談窓口  
TEL :03-3582-5651

(平日9時～12時/13時～17時  
(土日、祝祭日を除く))

(海外)  
ジェットロ・ビエンチャン事務所  
LVI@jetro.go.jp